

## 課題 4

(誤字・遅れ・体裁等形式面 ～10) (出典明示～10) (教科書で用いられない事例10) (具体性 5)

### 失敗知識データベースや新聞記事などを用いて

・係争中の事件を扱うような場合、メディアが企業より**公衆の立場から論じている**方がよい。協賛・出資関係によりメディアは企業寄りになりやすい。(技術者が誰に対して優先的に責任を負うかを踏まえること。) 10

### 技術者および**開発**に関する具体的な事件から

(エンジニア(技術者)が中心となる、開発や保全の事例 10)

\*作業員や非技術者が当事者の場合は大きく減点します。

事例**提示**の段階で、1以降の**分析対象となる事柄**(**説明責任、内部告発**に関すること)の要素を提示したい。

アンダーライン、ナンバリングを用いてこれらの要素を示す。「①の部分については説明責任を果たさなかったことを示す」「②の部分は内部告発のために上司に報告したことを示す」等としておけば1以降の論述が追いやすい。

1. **マギンの指針3**を満たせておらず、**内部告発**に発展した事例を選び、この事例をもとに**派生的指針**を作れ。

(マギンの指針1～4の説明(それぞれ過不足なく) 1 0)

(その事例がマギンの指針3を満たせていないことを説得的に提示 2 0)

(適用されたマギンの指針から派生的指針が論理的かつ具体的に導かれる 2 0)

指針3についての派生 企業ではなく**技術者の行動指針**を示すよう注意

この課題で取り上げる事例はおそらく、説明責任を企業が遂行しないのみならず、隠蔽があって告発にいたるケース

できれば行動指針を**内部告発に備える**ものにしたい。(ディジョージの条件を派生的指針に織り込んでもよい。)



2. この事例を**ディジョージの内部告発の5条件**と照合し、内部告発の回避が可能な事例だったかどうか分析せよ。

(ディジョージの5条件の説明（条件と告発の可能・必要性の関係が分かるように） 10）

(事例発生段階での内部告発が回避の可否を5条件から適切に説明 20）

告発に至るまでに条件3「社内でできることを尽くしたか」が明白なものを選ぶ。でないと条件との照合が不明確になってしまう。

条件2（上司への報告）、条件3（社内でできることを尽くしたか）が参考資料からどうしても明らかにできない場合があるはず。その場合、あくまで推測にとどめて論ずる。ただし、時代背景や記述されているかぎりの状況から蓋然性の高い推測を目指す。

また自分が当人であったら、という目線で推測を立てること。

締切 7月23日（水） 23時

提出方法 Teams課題提出フォームから